

## 定例部長会議開催結果 概要

●日時	令和8年5月11日(月) 午後2時30分から午後3時10分まで			
●場所	3A会議室			
●出席者	■は出席(代理出席は○)			
	■ 市長	■ 石原副市長	■ 高橋副市長	■ 教育長
	■ 政策部長	■ 総務部長	■ 税務担当部長	■ 暮らし安心部長
	■ 文化スポーツ部長	■ 福祉部長	■ こども健康部長	○ 環境産業部長
	■ はだの魅力づくり担当部長	■ 都市部長	■ 建設部長	■ 上下水道局長
■ 教育部長	■ 消防長			
	進行：副市長 事務局：総合政策課長、総合政策課課長代理(政策調整担当)、担当 陪席：秘書課長			
●会議	1 市長あいさつ 2 報告事項 (1) 工事請負契約の締結について [契約検査課・都市整備課] (2) 令和8年度固定資産税の賦課状況等について [資産税課] (3) 秦野市職員づくり基本方針第3期実施計画の策定について [人事課] (4) 土地利用委員会調整部会の審議案件について [開発指導課] 3 その他			
●会議概要	1 市長あいさつ ・新年度が始まり、早いもので、1か月が過ぎた。 ・4月異動の職員も、新しい職場に慣れ、力を発揮しているものと思うが、ゴールデンウィークが終わり、リフレッシュできたのではないかと思う。 ・連休中に仕事に従事した職員もいるが、気持ちも新たに、職務に励んでもらいたい。 ・先月18日、19日の2日間にわたり、「第70回秦野丹沢まつり」を開催したが、天候にも恵まれ、多くの登山者の参加のもと、表丹沢の「山開き」を行うことができた。 ・また、秦野戸川公園、西中学校周辺では、登山シーズンの幕開けを祝う多彩なイベントを実施し、2日間で、延べ57,000人に来場していただいた。 ・新緑が映えるさわやかな時期を迎え、これから本格的な登山シーズンとなる。面白い、楽しい「OMOTAN」の魅力を、これまで以上に発信していきたいと思う。 ・今、色々なイベントでOMOTANコインの普及を図っているが、今後、普段使いがさらに普及するよう取り組んでいきたい。 ・是非、庁舎内でも、昼食のお弁当や歓送迎会の支払いでOMOTANコインを活用するなど、普段使いを徹底してもらいたい。 ・先月実施した「重要施策ヒアリング」は、新年度のスタートに当たり、総合計画をはじめとした施策の方向性や優先順位を見定めるための起点であるとともに、夏のサマーレビュー、秋から始まる令和9年度予算編成へとつながるものである。			

- ・各部局長からの、今年度にかける力強い決意表明と丁寧な説明により、有意義な議論を行うことができた。
- ・ヒアリングで確認した点は、政策部が中心となり、全庁的な進行管理を行っていくが、それぞれの立場で徹底した議論をお願いしたい。
- ・特にリーディングプロジェクトは、その効果を最大限発揮させるため、縦、横の連携をしっかりと取りながら、失敗を恐れず、思考停止に陥らず、柔軟な発想をもって、全庁一丸となり、積極・果敢に挑戦してもらいたい。
- ・限られた時間であったため、掘り下げた議論や、話題にできなかった課題もあったが、今後、折に触れて、話したいと思う。
- ・年度始めの慌ただしい中での対応に感謝する。
- ・災害に対する日頃の備えについて、先月23日付けで、危機管理監から文書を発出しているが、4月に入り、茨城県や長野県、青森県、北海道と震度5弱、5強の地震が発生している。
- ・秦野市においても、都心南部直下地震、神奈川県西部地震、南海トラフ巨大地震など、大規模地震発生の切迫性が高まっている。
- ・これから本格的な出水期（梅雨、台風等）に入り、風水害への対応も予想されるため、職員一人ひとりが災害対応を自分事として捉え、災害発生時には、迅速かつ適切な行動がとれるよう、自らの役割や各課のBCPを再確認するなど、部局長のリーダーシップにより、職員の防災意識を高め、日頃から災害に備えるようお願いしたい。
- ・5月に入り、これから徐々に蒸し暑くなってくる。職員の皆さんには、体調に十分留意され、職務に邁進していただきたい。
- ・また、連休明けは五月病といわれるように、無気力感や疲労感など、心や体に何らかの変調や症状が現れることがある。
- ・それぞれの職場で、しっかりと職員のケアをしてもらい、特に新採用職員や異動した職員への声掛けなど、コミュニケーションを密にし、何でも相談し合える風通しの良い職場環境づくりをお願いする。

## 2 報告事項

- (1) 工事請負契約の締結について [契約検査課・都市整備課]

【説明】資料に基づいて説明

【意見・質疑】なし

- (2) 令和8年度固定資産税の賦課状況等について [資産税課]

【説明】資料に基づいて説明

【意見・質疑】

問. 新築・滅失家屋の動向等は、年度ではなく年ということによいか。

答. 年で表記している。

問. 固定資産税調定額の推移で、令和元年以降、家屋の調定額が土地の調定額を上回っているのは、土地の路線価が下がっているからか。

答. 路線価が下落している点と、新築家屋が一定数あるという点が要因

となっている。

問. 令和9年度の評価替えで、土地の調定額は上がる認識でよいか。

答. そのとおりである。

(3) 秦野市職員づくり基本方針第3期実施計画の策定について [人事課]

【説明】 資料に基づいて説明

【意見・質疑】 なし

(4) 土地利用委員会調整部会の審議案件について [開発指導課]

【説明】 資料に基づいて説明

【意見・質疑】 なし